

主要生命保険会社の令和2年3月期決算の概要

1. 損益の状況（単体）

- 保険料等収入は、外国金利低下により、一時払外貨建て保険の販売が減少したことなどから、前年に比べ減少。
- 当期純利益（純剰余）は、団体保険の保険料引き下げを主因に基礎利益が減少したことに加え、外国金利低下による外貨建て保険に係る責任準備金積立額の増加を主因にキャピタル損益が減少したことなどから、前年に比べ減少。

（単位：億円）

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期	前年比
保険料等収入	296,636	307,500	282,509	▲24,990
基礎利益	35,560	37,072	36,031	▲1,041
キャピタル損益	▲1,243	▲4,630	▲7,347	▲2,717
臨時損益	▲6,566	▲4,101	▲6,756	▲2,655
特別損益	▲5,856	▲4,661	▲2,695	1,965
当期純利益（純剰余）	15,053	16,319	12,551	▲3,768

2. 健全性の状況（単体）

- ソルベンシー・マージン比率は、株価下落に伴って、その他有価証券評価差額金が減少したものの、一部の社が劣後債発行をしたことなどから、前年度末に比べ3.9%ポイント上昇。

（単位：%）

	平成30年3月期	平成31年3月期	令和2年3月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	959.3	990.6	994.5	3.9Pt

（注）日本生命、第一生命、明治安田生命、住友生命、太陽生命、大同生命、富国生命、大樹生命、朝日生命、ソニー生命、ジブラルタ生命、アクサ生命、アフラック生命、メットライフ生命、東京海上日動あんしん生命、第一フロンティア生命、三井住友海上プライマリー生命、プルデンシャル生命、かんぽ生命の19社を集計。